

科目名	書道 I	学科・学年・学級	普通科・1 学年・全クラス（選択）
		単位数	2 単位（週 2 時間）
使用教科書・副教材等		[教科書] 書道 I ・書 I プライマリーブック（教育図書） [副教材] なし	

1 学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指します。

2 学習方法

書道 I では、「漢字の学習」「漢字仮名交じりの学習」「仮名の学習」及び「鑑賞」についてバランスよく学習し、幅広い活動を通して、創造的な芸術に関する基礎的な資質・能力を育成します。

3 学習評価

(1) 評価の観点・趣旨・方法

観 点	趣 旨	評 価 の 方 法
知識・技能	書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めているか。 書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表現できているか。	・成果物（作品やレポート） ・実技テスト ・リフレクションシート
思考・判断・表現	書よさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができているか。	・制作過程（草稿や制作記録） ・リフレクションシート
主体的に学習に取り組む態度	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしているか。	・課題に取り組む姿勢 ・リフレクションシート

(2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は3つの評価の観点を踏まえ、「成果物と制作過程」「課題への取り組み姿勢」「リフレクションシート」などを総合して行います。学年末の評価は1年間の評価を総合して行います。

4 学習のポイント

- ・ 道具の準備や課題の提出期限など授業の基本的なルールを守り、能動的な態度で授業に臨みましょう。
- ・ 表現や鑑賞の活動を通して、自己理解と他者理解を深めましょう。
- ・ 日常生活においても「書に関する見方・考え方」を意識し、授業の学びを生活全般に生かされるように心掛けましょう。

5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い ・ 活 動
4	オリエンテーション	・ 書道 I の学習の見通しを持ち、学びの意味や広がりについて考えます。
5	漢字の書（楷書）	・ 習字と書道の違いについて考えます。
6		・ 書の基本的な技法や表現（起筆、送筆、収筆の意味や書の線、文字の太さや
7		形のバランス）について学び、臨書作品を制作します。
8		・ 作品と作者との関係を学びます。
9	漢字の書（行書）	・ 行書の息遣いと文字の構成や筆順の変化について学び、楷書と行書の違いについて学びます。
		・ 書の呼吸や作者の精神性が作品と密接に関わっていることを学び、臨書作品を制作します。
10		・ 自分らしい言葉と表現を目指して創作活動を行う過程で、表現の多様性について学びます。
	漢字の書（創作）	・ 制作を通して自分自身と対話し、意図を効果的に表現できる方法を考えます。
11		・ 条幅（半切）への臨書作品を通して、筆脈の貫通や墨継ぎなどの全体構成を学びます。
12	条幅作品の制作 仮名の書	・ 一つの古典を丁寧に学ぶことで自ら学び成長する大切さを考えます。
		・ 平安時代の仮名古筆を鑑賞、臨書し、仮名の用筆法や空間の取り方、日本独特の表現と美意識を学びます。
1	漢字仮名交じりの書	・ 素材となる文章を味わい、作者のイメージに自分のイメージを重ね、適切な表現方法を模索します。
		・ 漢字と仮名の調和方法について学びます。
2		・ 文字の大小、字間や行間、墨量といった要素によって変化する表現効果について学習します。
		・ 紙面への効果的な構成法について学びます。
3	まとめ	・ 作品を鑑賞し、制作意図との関係を探ります。
		・ 生活と書道のかかわりに目を向け、1年間の学びを振り返ります。